

[54] Title of the Invention: Packaging container

[11] Japanese Patent Utility Model Laid-Open No.: 3-87675

[43] Opened :Sep. 6, 1991

[21] Application No.: 1-147992

[22] Filing Date: Dec. 22, 1989

[72] Inventor(s): Tanba

[71] Applicant: Kobayashi Seiyaku

#### Claims

1. A packaging container having a container body (1) arranged of which the opening (2) is sealed off by securely bonding an air-permeable member (4), to which a liquid not-permeable member (3) having a non-bonding region (3a) arranged throughout the rim thereof is peelably bonded, to a flange region (2a) about the opening (2) of the container body (2).

2. A packaging container according to claim 1, wherein the non-bonding region (3a) has a width of not smaller than 1 mm.

#### Brief Description of the Drawings

Fig. 1 is a perspective view of a packaging container according to the present invention;

Fig. 2 is a cross sectional view taken along the line A-A of Fig. 1 showing the packaging container of the present invention; and

Fig. 3 is an exploded perspective view of the packaging container of the present invention,

in which primary components are: (1)...container body; (2)...opening; (2a)...flange; (3)...liquid non-permeable member; (3a)...non-bonding region; and (4)...air-permeable member.

# 公開実用平成 3-87675

③ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

② 公開実用新案公報(U) 平3-87675

④ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑤ 公開 平成3年(1991)9月6日

B 05 D 77/38  
81/26  
// A 45 D 34/00  
B 65 D 85/00

A 7127-3E  
7191-3E  
8206-3B  
8921-3E

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 頁)

⑥ 考案の名称 包装用容器

⑦ 実 願 平1-147992

⑧ 出 願 平1(1989)12月22日

⑨ 考 案 者 丹 波 隆 兵庫県伊丹市野間字高野272-3

⑪ 出 願 人 小林製薬株式会社 大阪府大阪市中央区道修町4丁目3番6号

⑫ 代 理 人 弁理士 辻本 一 哉 外1名



## 明 細 書

### 1. 考案の名称

包装用容器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

1. 外周の全域に非接着部（3 a）を有する液体不透過性部材（3）を剝離可能に密着した気体透過性部材（4）を、容器本体（1）の開口部（2）のフランジ（2 a）に剝離不能に密着することにより、前記容器本体（1）の開口部（2）を密閉したことを特徴とする包装用容器。

2. 前記非接着部（3 a）の幅が、1 mm程度以上であることを特徴とする請求項1記載の包装用容器。

### 3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

この出願の考案は、例えば、使用時に開封して揮散させるようにした液体芳香剤等を封入しておくのに適した包装用容器の改良に関するものである。

1031



〔従来の技術〕

従来、この種の包装用容器は、外周に非接着部を全く有さないか、外周の一部に非接着部を有する液体不透過性部材を剝離可能に密着した気体透過性部材を、容器本体の開口部のフランジに剝離不能に密着することにより、その開口部を密閉していた。

〔考案が解決しようとする課題〕

しかしながら、上記従来の包装用容器では、液体芳香剤等を揮散させる場合には液体不透過性部材を剝離して使用するが、外周に非接着部を全く有さないものでは手掛かりが全くないため、液体不透過性部材と気体透過性部材の間に隙間をこじあけて、この隙間を手掛かりに液体不透過性部材を剝離すると、この部分では液体不透過性部材の外周端より少し内側に入った裂け難い個所から剝離されるが、すぐに液体不透過性部材の裂け易い個所である外周端から剝離されるようになるので、剝離の途中で液体不透過性部材がこの外周端から裂けてしまうという課題を有し、さらに、外周



の一部に非接着部を有したものでは、この非接着部を手掛かりに液体不透過性部材を剝離すると、この部分では液体不透過性部材の外周端より少し内側に入った裂け難い個所から剝離されるが、すぐに液体不透過性部材の裂け易い個所である外周端から剝離されるようになるので、剝離の途中で液体不透過性部材がこの外周端から裂けてしまうという課題を有していた。

そこで、この出願の考案は、上記従来の包装用容器の液体不透過性部材を剝離する場合に、剝離の途中でこの液体不透過性部材が裂けてしまうという課題を解決することを目的としてなされたものである。

〔課題を解決するための手段〕

そのため、この出願の考案の請求項１記載の包装用容器は、外周の全域に非接着部（３ａ）を有する液体不透過性部材（３）を剝離可能に密着した気体透過性部材（４）を、容器本体（１）の開口部（２）のフランジ（２ａ）に剝離不能に密着することにより、前記容器本体（１）の開口部（



2) を密閉したものである。

さらに、この出願の考案の請求項 2 記載の包装用容器は、前記請求項 1 記載の包装用容器と同様の構成において、非接着部 (3a) の幅が、1 mm 程度以上であるものとしている。

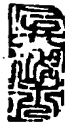
〔作用〕

この出願の考案の包装用容器は、上記手段を施したため、請求項 1 及び 2 記載の考案共に、液体不透過性部材 (3) の非接着部 (3a) の適宜箇所から、この非接着部 (3a) の一部を手掛かりに液体不透過性部材 (3) を剝離すると、非接着部 (3a) が液体不透過性部材 (3) の外周の全域に存在するので、常に液体不透過性部材 (3) はその外周端より少し内側に入った裂け難い箇所から剝離される。

〔実施例〕

以下、この出願の考案の包装用容器の構成を、実施例として示した図面に基づいて説明する。

(1) は、開口部 (2) にフランジ (2a) を有する容器本体である。そして、この容器本体 (



1) の開口部 (2) のフランジ (2 a) には、外周の全域に非接着部 (3 a) を有する液体不透過性部材 (3) を剝離可能に密着した気体透過性部材 (4) を、剝離不能に密着し、この開口部 (2) を密閉したものである。

前記非接着部 (3 a) の幅は、5 mm ~ 10 mm 程度であれば、手掛かりとして好ましいが、1 mm 程度以上であれば十分実施可能である。

前記液体不透過性部材 (3) を気体透過性部材 (4) に剝離可能に密着するには、気体透過性部材 (4) の全面に密着させてもよいが、第 2 図に示したように、容器本体 (1) の開口部 (2) を包囲するようにした気体透過性部材 (4) の接着部 (4 a) のみに密着させてもよい。

また、前記気体透過性部材 (4) を容器本体 (1) の開口部 (2) のフランジ (2 a) に剝離不能に密着するには、第 2 図に示したように、フランジ (2 a) の全面に密着させてもよいが、前記液体不透過性部材 (3) と同様、容器本体 (1) の開口部 (2) を包囲するようにしたフランジ (



2 a) の接着部 (2 b) のみに密着させてもよい

前記液体不透過性部材 (3) は、実施例ではアルミシートを使用したか、これに限定されるものではなく、液体不透過性の熱可塑性樹脂等、適宜のものが使用できる。

前記気体透過性部材 (4) は、ポリジメチルシロキサン、ポリイミド等の気体分離膜や、N-ビニルピロリドングラフトポリテトラフルオロエチレン、酢酸セルロース等の有機液体分離膜等、適宜のものが使用できる。

〔考案の効果〕

以上に述べたように構成されたこの出願の考案の包装用容器は、請求項 1 及び 2 記載の考案共に、液体不透過性部材 (3) の非接着部 (3 a) の適宜箇所から、この非接着部 (3 a) の一部を手掛かりに液体不透過性部材 (3) を剝離すると、非接着部 (3 a) が液体不透過性部材 (3) の外周の全域に存在するので、常に液体不透過性部材 (3) はその外周端より少し内側に入った裂け難





い個所から剥離されるので、剥離の途中で液体不透過性部材（３）が裂けてしまうようなことはなくなった。

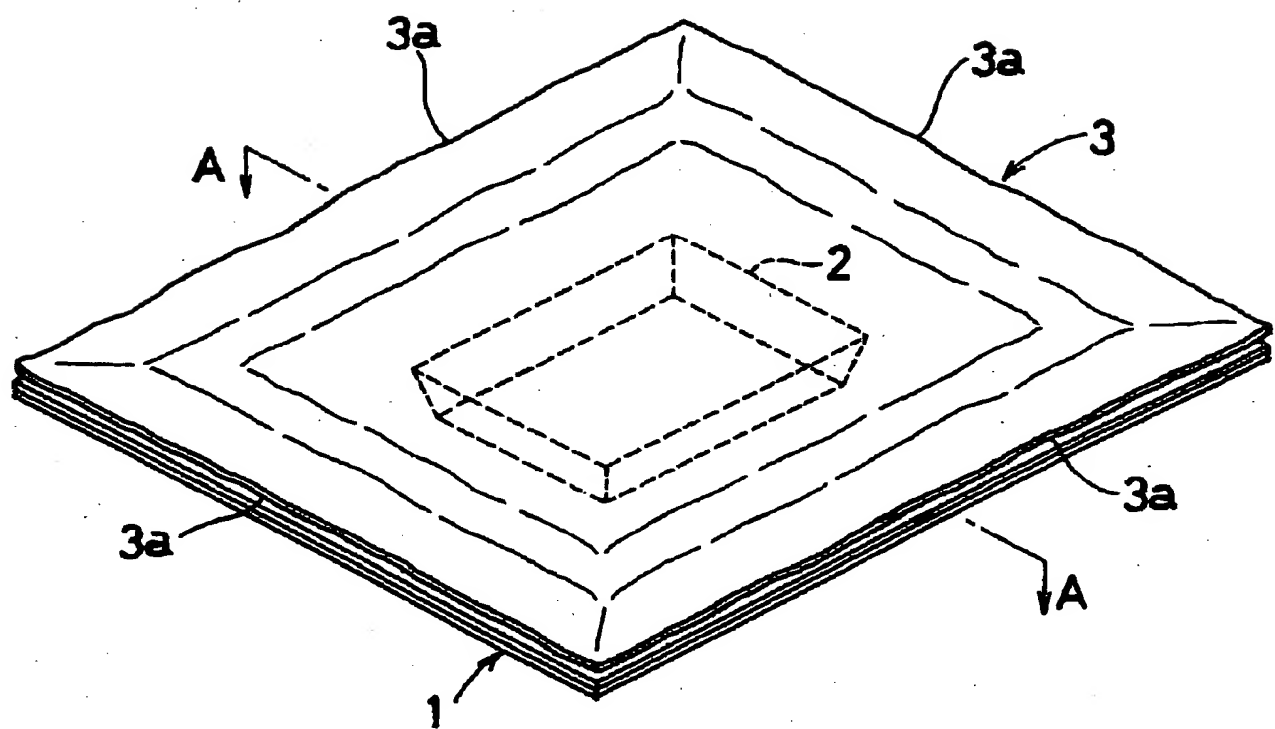
#### ４．図面の簡単な説明

第１図は、この出願の考案の包装用容器の斜視図。第２図は、この出願の考案の包装用容器の第１図中のＡ－Ａ線による断面図。第３図は、この出願の考案の包装用容器の分解斜視図。

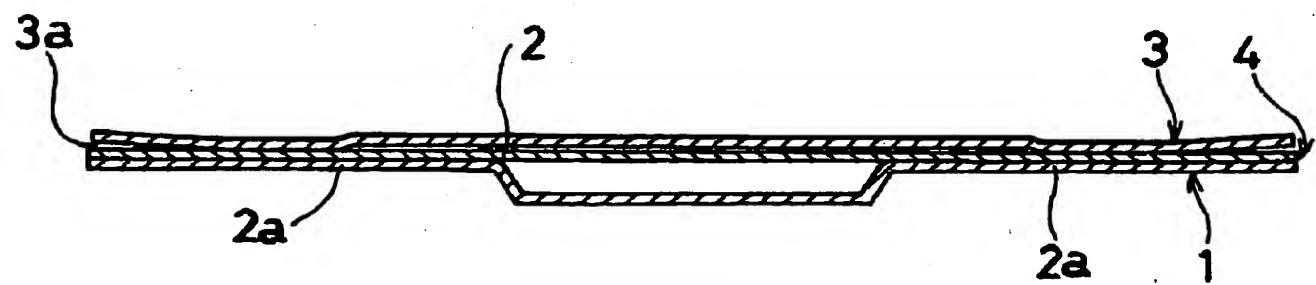
- （１）…容器本体      （２）…開口部  
（２ａ）…フランジ    （３）…液体不透過性部材  
（３ａ）…非接着部    （４）…気体透過性部材

代理人 弁理士 辻 本 一 義  
代理人 弁理士 泉 克 文

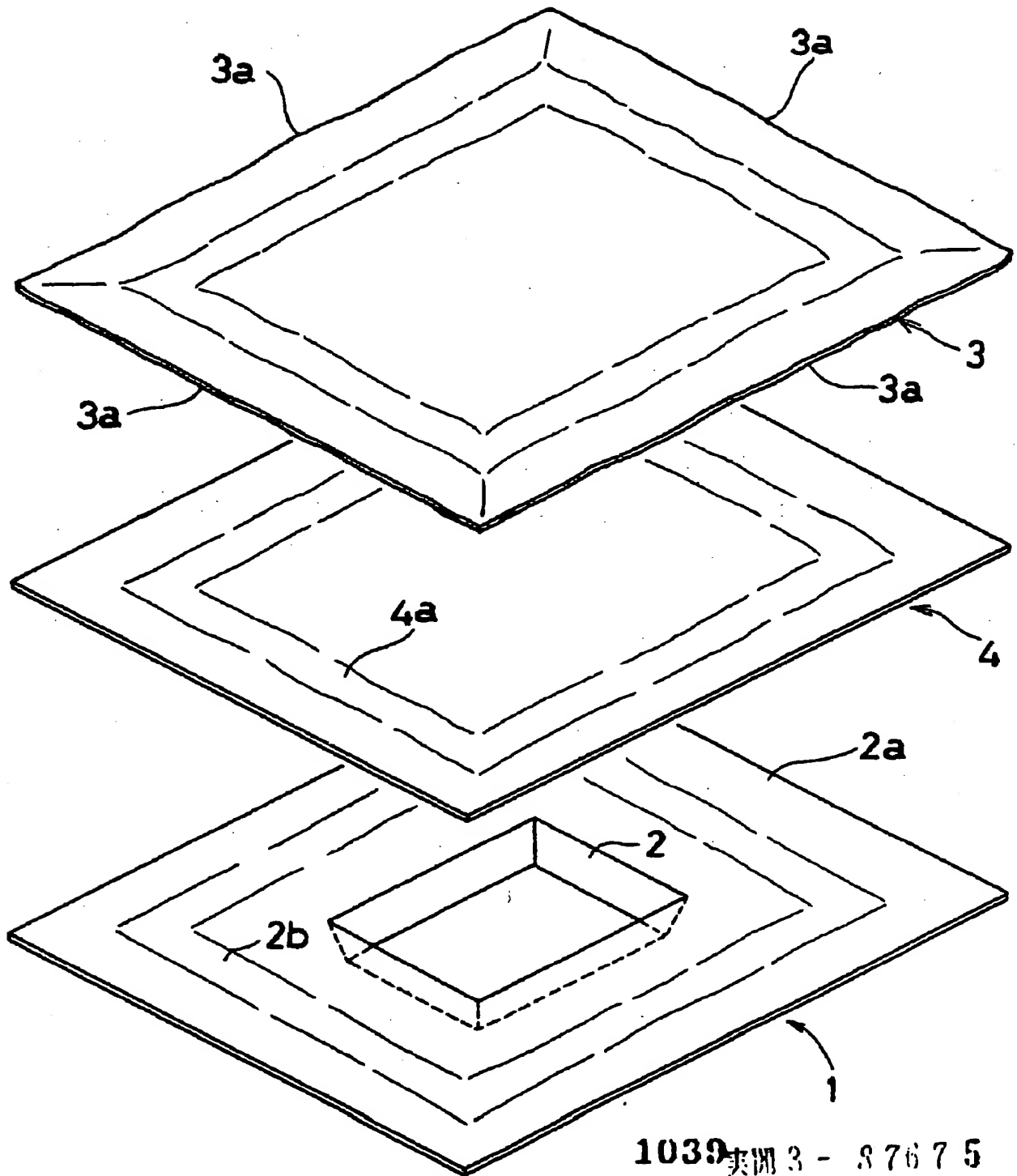
第 1 図



第 2 図



第 3 図



1039 実開 3 - 87675

代理人 弁理士 辻 本 一 義  
仲 田 久 花 岡 十 八